

第2学年 英語科学習指導案

日時 平成23年9月5日(月) 5時間目
学級 2年1組(男子14名 女子12名 計26名)
授業者 教諭 村松 拓

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (アメリカでのホームステイ)

2 単元(教材)について

このユニットの場面設定はホームステイである。ホームステイ先で想定される会話例や生徒の悩み相談の題材を通して、コミュニケーションに求められる基本的態度やアドバイスに使われる助動詞や表現を学ぶことができるようになっている。言語表現だけでなく、誠意をこめて自分の意志を伝えることの大切さやホストファミリーの一員としてのあり方について学ぶことができることから、国際理解教育の教材としても有効である。

このユニットの学習を通じて自分の意志や相手へのアドバイスを伝えることができるという実用性にも気付かせていきたい。

3 単元(教材)の設定理由

(1) 教材観

本ユニットでは、**have to, do not have to, will, must, must not** を用いた文の形・意味・用法について学ぶ。これらを学ぶ上で関連づけていかなければいけない既習事項は、1年生で学習した助動詞 **can** である。助動詞のしくみや機能についての定着度を確認し再度ふれ、関連させながら本ユニットの学習を進めなければいけない。また、学習活動を進める中で、相手にアドバイスをしたり自分の意志を伝えることができることに気付かせ、自らの言葉として身に付けさせたい。

さらに、単元のまとめの時間を設けその中でユニットの学習内容についてまとめるとともに **have to** について **want to** などと比較しながらまとめたり **must** と **have to** の違いについて、助動詞と不定詞の疑問文と否定文の作り方についてもふれる必要がある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は海外でのホームステイ経験者はいない。ホームステイをしたいと希望する生徒は女子に数名いて、他にもホームステイ時の会話や家事の手伝い、ベッドメイク、食事の様子等についてはインターネットや書物などの情報からある程度知識のある生徒も多い。

また、**can** を使った英文については応答する会話や英文作りができる生徒が多いが、あいまいな生徒も2割程度いるのが現状である。助動詞の後には必ず動詞の原形がくることについてもほぼ理解が進んでいる。そこで本時では、助動詞の後にくる動詞の形については簡単にふれる程度とし、自分の意思を示す **will** の学習に集中させていきたい。

本ユニットでもコミュニケーション活動への積極性を目標に盛り込み、落ち着いた学習態度で授業に臨んでいる生徒が多いことを生かして、生徒が失敗を恐れず進んで発言できるよう配慮したい。また、言語学習における誤りが学習意欲をそぐ原因とならないよう、積極性をもって授業を行うことの大切さを強調し生徒同士で自分の意志や相手へのアドバイスを伝え合うことができるよう、支援していきたい。

(3) 指導観

本ユニットでは、**Starting Out** の時間を利用してホームステイを始めとする異国の文化についてについてふれたい。まず、知識のある生徒に発言を求め知識を共有する。しかし、発言した生徒の知識が足りず文化について理解が進んでいないと題材について扱いづらい面も生じるため、不足している部分については教師のホームステイ経験からの情報を提供したい。

生徒たちは、これまで取り組んできた言語活動の中でも教科書本文の暗唱をはじめとするインプットに多くの時間を割いてきた。また、実践的な力を身につけさせるために「話す・書く」ためのコミュニケーション活動に重点を置いて実施し、このユニットにおいても、**have to, do not have to, will, must, must not** を用いた英文にふれ、自己表現力を高めさせたい。そのために、アウトプットの機会も保障していきたい。

そして、**have to** の扱い方については、**will** や **must** などの助動詞と同じようにして学習に取り入れ、**have** と **must** の違いや助動詞を使った時のルール、語順や動詞の原形といったルールについては単元のまとめの時間を使ってふれていきたい。

6 指導計画

Unit 4 Homestay in the United States (アメリカでのホームステイ)

ユニット指導時間5時間

パート名 (時間数)	学習課題	学習内容
単元のまとめ (1時間)	Unit 4 で学習した内容の確認をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞を使った英文についてまとめる。 ・ have to について want to などと比較しながらまとめる。 ・ must と have to の違いについてまとめる。 ・助動詞や不定詞の後にくる動詞についてまとめる。 ・助動詞と不定詞の疑問文と否定文の作り方についてまとめる。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

ア ホームステイのマナーについて関心をもって学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

イ 暗唱や「聞く・話す」などのコミュニケーション活動に積極的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

ウ will を用いた文の形・意味・用法を理解し、will を含んだ対話が表現できる。(表現)

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する生徒への支援)
意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイのマナーについて関心をもっている。 ・対話表現のときに対話相手を意識しイントネーションに気をつけて取り組み発表している。 ・will の意味を理解し文の形・意味・用法を考えながら対話表現を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイでは自分でベッドメイクを知っている。 ・対話練習に繰り返し取り組み、発表の場面で最後まで通して行っている。 ・will の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメイキングの内容について確認する。 ・対話練習のやり方について確認する。 ・will の意味について確認する。
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・会話や暗唱発表が正確かつ適切な発話で行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話や暗唱発表が適切な発話で行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の仕方を助言する。

(3) 指導の構想

本時の学習課題である「こんなときあなたはどうしますか。」の達成に向けて、始めに本時の目標となる英文「I'll show you.」の音声を出さない形でビデオによる場面提示を行い、隠された英文をイメージさせることで本時の学習課題を設定したい。また、コミュニケーション活動の中に「But I don't know how. I'll show you.」と同じように自分の意思を伝える多くの場面を設けて表現練習した上で

ア どんな場面で will が使われるか

イ will の意味と用法

ウ will の後に入る動詞のしくみ

の3点を理解させたい。

そして、その上で反復練習を十分に行い対話表現のときに対話相手を意識しイントネーションに気をつけて取り組ませてから発表へとつなげ、will を用いた自分の意思を伝える英文のやりとりができることを目指させたい。

4 研究主題とのかかわり

本校の研究主題『基礎・基本の確かな定着を図る指導法の在り方～学ぶ意欲を高める指導の工夫～』に伴い、本教材における基礎・基本を、

- (1) コミュニケーション活動に積極的に取り組み、表現できる。
- (2) have to, do not have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (3) will を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (4) must, must not を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (5) 語句や文を正しく発音する知識を身につけ、語句や文の使い分けを理解できる。
- (6) 相談とそれに対する助言を読んで、内容を理解できる。
- (7) 苦情とそれに対する忠告を読んで、内容を理解できる。

とした。

学習課題で have to, do not have to, will, must, must not を含む英文を書いたり、読んだり、聞いたり、言ったりすることができることが目標になることを明確にし、基本文を通じて英文の仕組みについて確認し、文作りやリスニング、スピーキング活動を行うことで主体的に取り組む機会を設け、定着を図りたい。また、身につけさせたい基礎・基本を理解することで学習したことを使用して、身の回りに使われている内容（校則、目標、母親からのアドバイスなど）を明示できることを確認して意欲を高め、日常生活に有効な英文をつくることができ便利という見方・考え方を育てていきたい。そして、身の回りに使われている有効な内容についてはノートや学習プリントに必ずまとめることで書く活動を通してまとめとしたい。

5 単元の目標

- (1) 暗唱や「聞く・話す」などのコミュニケーション活動に積極的に取り組み表現することができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) have to, do not have to, will, must, must not を用いた文の形・意味・用法を理解し、その英文を用いて自分の意思を伝えることができる。(表現)
- (3) have to, do not have to, will, must, must not を含む英文を聞いたり読んだりして内容を理解できる。(理解)
- (4) 相談とそれに対する助言・忠告を呼んで内容を理解し異国の文化にふれることができる。
(言語・文化の理解)
- (5) 語句や文を正しく発音する知識を身につけ、語句や文の使い分けがわかる。(言語・文化の理解)

6 指導計画

Unit 4 Homestay in the United States (アメリカでのホームステイ) ユニット指導時間5時間

パート名 (時間数)	学習課題	学習内容
Starting Out (1時間)	相手に強く行動を求めるとはどんな表現を使えばよいだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ have to や do not have to を含んだ英文についてまとめる。 ・ have to や do not have to を含んだ英文を書く。 ・ have to や do not have to を含んだ英文の対話を行う。
Dialog (1時間) ※本時	こんなときあなたはどうしますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ will を含んだ英文についてまとめる。 ・ will を含んだ英文を書く。 ・ will を含んだ英文の対話を行う。
Reading for Communication (2時間)	自分がする必要がある時の英文について学ぼう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ must を含んだ英文についてまとめる。 ・ must を含んだ英文を書く。 ・ must を含んだ英文に気をつけて英文理解をすすめる。
	してはならないことについての英文を学ぼう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ must not を含んだ英文についてまとめる。 ・ must not を含んだ英文を書く。 ・ must not を含んだ英文に気をつけて英文理解をすすめる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1 Warm up	・英語であいさつをする。	・英語学習の雰囲気を作る。
	2 課題把握	・モデル対話の映像を視聴し、学習課題をイメージする。	・教科書は閉じさせる。
	3 課題設定		・生徒を主導して課題を決定する。
意思表示をしよう。			
展開 35分	4 基本文の学習	・基本文についてまとめる。 ・発音と意味を確認し、反復練習をする。	・簡潔に確認させる。 ・口頭練習を多く繰り返し発音に慣れさせる。
	5 本文の内容把握	・音声を2度聞き、質問に答える。	
	6 音読練習	・教師のあとについて音読する。 ・Read & Look Up をする。 ・ペア読み ・発表	・机間指導をし、個別指導も行う。 ・数組のペアに発表させる。
	7 コミュニケーション活動	・指示に応じた対話文を完成し、ペアで練習する。 ・十分練習し、発表する。	・英文を書いたり聞いたりすることで、英文に慣れさせる。 ・タイマー ・ワークシート ・生徒同士の協力を促す。
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが相手と協力して活動しているか。(関心・意欲・態度) ・相手の言葉を適切に聞き取り、答えているか。(理解・表現) 			
終結 5分	8 本時のまとめ	・学習課題の確認をする。	・学習事項を確認させる。
	9 自己評価	・本時の学習を振り返る。	
	10 次時の予告	・次時の学習内容について簡単にふれる。	

(5) 評価

ア ホームステイのマナーについて関心をもって学習に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)

イ 暗唱や「聞く・話す」などのコミュニケーション活動に積極的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)

ウ will を用いた文の形・意味・用法を理解し、will を含んだ対話が表現できたか。(表現)